

リンパ浮腫について

リンパ浮腫は、様々な原因によりリンパの流れが滞ってしまった結果、リンパ液が皮下に溜まり、手足がむくんでしまう病気です。初期にはむくみ以外の症状がほとんどありませんが、放置すると症状が進行して、皮膚が硬くなる象皮症、リンパ液が皮膚を破って漏れ出すリンパ漏、蜂窩織炎という感染症などが起こり、日常生活に支障を来たすようになります。リンパ浮腫を発症したら、早期から治療を始め、悪化を防ぐことが重要です。

治療法として、弾性ストッキングなどを用いた圧迫療法、リンパ管静脈吻合、リンパ節移植など手術がありますが、当院形成外科では手術を中心とした治療を行っています。

リンパ管静脈吻合術

リンパ管静脈吻合は、皮膚を2cmほど切開し、皮下で径0.5mm程度のリンパ管と静脈をつなぎバイパスを作り、滞ったリンパ液を中枢方向へ流す方法です。傷が小さく、皮下の浅いところにしか手術操作を加えないため、体への負担が少ない手術です。

血管柄付きリンパ節移植術

進行したリンパ浮腫や患肢の静脈血栓、静脈の逆流を伴うリンパ浮腫では、リンパ管静脈吻合では十分な効果が得られないことがあります。このような場合、身体の他の部位から正常なリンパ節を血管柄付きで採取して、リンパ浮腫の場所に移植することでリンパ管の新生を促す必要があります。この血管柄付きリンパ節移植は、手術時間が長くリンパ管静脈吻合に比べ侵襲の大きい手術ですが、近年海外では広く用いられている方法です。

患者さんへ

これまで治療困難といわれてきたリンパ浮腫に対して新しい手術治療が行われるようになりましたが、まだ分かっていないことも多く、全ての患者さんに有効というわけではありません。まずは形成外科を受診いただき、それぞれの患者さんの病態に応じて適切な診断、治療を行うように心掛けています。